第 12 回：心の豊かさを育む

会長　田中 仙堂

「心の豊かさ」とは違って、「物質的な豊かさ」ならば、どちらがそのものをたくさん持っているか、という形で豊かさを比較することは可能でした。

電化製品が普及していく過程では、三種の神器といわれた白黒テレビ・洗濯機・電気冷蔵庫、3C といわれたカラーテレビ・クーラー・自動車等を人よりも先に手に入れることで、目に見える形での豊かさを実感することが、経済成長を支えてきました。「買いたいものがない」と言われる現在、人々は何を求めているのでしょうか？「心の豊かさ」ではないかと思います。

「心の豊かさ」の場合、心が豊かだと感じる感じ方はさまざまです。他人を理解しようとする気持ちを持つ人を心が豊かと感ずる人もいれば、自然と親しんでいる人を心を豊かと思う人もあり、また、絵画、音楽と言った芸術を鑑賞することを喜びとする人を心が豊かと思うこともあります。

そう考えると答えは十人十色にならざるをえないかもしれません。大切なのは、自ら自分の心が豊かになるものを見つけることでしょう。その意味では、茶道だけではありませんが、茶道に触れることで、他人の心を読み理解する機会も、自然と親しむ機会も、芸術の鑑賞を喜びとする機会も与えられるように思います。

私たちは、茶道の中に心を豊かにするヒントが存在していることに気が付いてほしいと考えております。

平成 27 年 2 月発行　会報「えんじゅ 82 号」掲載